

Consolidated Business Results & Forecasts

2022年3月期 第1四半期決算説明会

2021年7月28日

株式会社SCREENホールディングス

代表取締役 取締役社長 最高経営責任者（CEO）

廣江 敏朗

資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切り捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。
- ・本資料では、例えば、「FY2022/03」と示す場合、2021年4月1日～2022年3月31日の会計期間を表します。

本日の決算説明会のサマリー

1Q決算実績

- 全社：前年同期比で増収増益 営業利益は4.7倍に
- SPE：前年同期比で増収増益 営業利益率は14.9%
- 受注：全社、3四半期連続1,000億円超
SPE、四半期最高の933億円
- 受注残高：全社、過去最高の1,805億円

通期業績予想

- 全社とSPEともに、売上および営業利益が過去最高
- 配当：5月予想からさらに増配、過去最高を予定

アジェンダ

- FY2022/03 1Q 連結業績
- FY2022/03 1Q セグメント別業績概況
- 財務状況
- FY2022/03 業績予想
- Appendix：セグメント別業績ほか

FY2022/03 1Q連結業績

前年同期比

(億円)	FY2021/03					FY2022/03		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	前年同期比	
売上高	668	758	737	1,038	3,203	828	159	23.9%
営業利益 営業利益率	18 2.8%	46 6.1%	63 8.6%	116 11.3%	244 7.6%	86 10.5%	68	367.5% 7.7pt
経常利益	19	34	58	114	227	86	66	335.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	19	13	45	72	151	60	40	204.3%

FY2022/03 1Q 連結業績

セグメント別

		FY2021/03					FY2022/03			
■ 前年同期比 (YoY) □ 4Q比 (QoQ)		(億円)	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	YoY	QoQ
SPE	メモリー向け売上大幅に増加し、ファウンドリー向けも堅調 地域別では中国向けや欧州向け売上が増加	売上	526	547	545	735	2,355	597	70	△137
		営業利益	42	44	64	107	259	88	46	△18
	ロジック、ポストセールスは増加。中国も増加	営業利益率	8.1%	8.2%	11.9%	14.7%	11.0%	14.9%	6.8pt	0.2pt
GA	世界経済の持ち直しを受け、欧米での売上回復	売上	79	90	93	111	374	96	17	△15
		営業利益	△3	1	1	5	5	2	6	△2
	リカーリングビジネスが堅調	営業利益率	△5.0%	1.9%	2.1%	5.0%	1.4%	2.7%	7.7pt	△2.3pt
FT	OLED用中小型パネル用製造装置で売上・利益増加	売上	36	89	71	149	347	102	66	△46
		営業利益	△15	4	1	13	4	2	17	△10
	売上減なるも利益確保	営業利益率	△41.4%	5.2%	2.5%	8.8%	1.3%	2.2%	43.7pt	△6.6pt
PE	直接描画装置の売上が好調に推移 採算性の改善により利益増加	売上	23	23	22	34	104	23	△0	△11
		営業利益	1	1	0	4	7	2	0	△2
	5G関連は堅調	営業利益率	5.2%	6.2%	1.4%	13.6%	7.4%	9.0%	3.8pt	△4.6pt

FY2022/03 1Q 連結業績

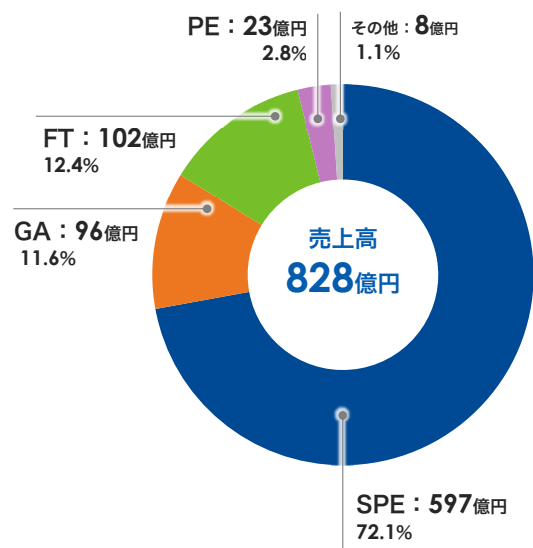
前年同期比

(億円)	FY2021/03					FY2022/03		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	前年同期比	
売上高	668	758	737	1,038	3,203	828	159	23.9%
SPE	526	547	545	735	2,355	597	70	13.4%
GA	79	90	93	111	374	96	17	21.7%
FT	36	89	71	149	347	102	66	180.5%
PE	23	23	22	34	104	23	△0	△0.7%
その他および調整	2	7	4	7	22	8	5	253.8%
営業利益	18	46	63	116	244	86	68	367.5%
営業利益率	2.8%	6.1%	8.6%	11.3%	7.6%	10.5%	7.7pt	
SPE	42	44	64	107	259	88	46	107.8%
GA	△3	1	1	5	5	2	6	-
FT	△15	4	1	13	4	2	17	-
PE	1	1	0	4	7	2	0	70.9%
その他および調整	△6	△6	△5	△14	△32	△8	△2	-
経常利益	19	34	58	114	227	86	66	335.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	19	13	45	72	151	60	40	204.3%

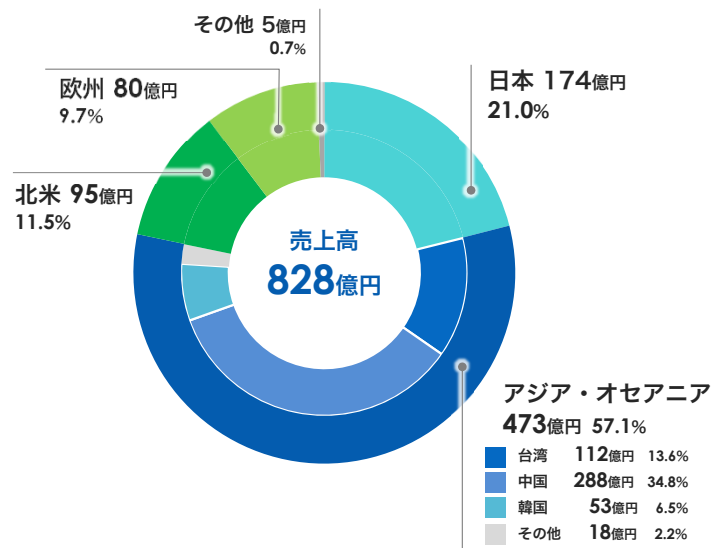
■ SPE : 半導体製造装置事業
 ■ FT : ディスプレー製造装置および成膜装置事業
 ■ GA : グラフィックアーツ機器事業
 ■ PE : プリント基板関連機器事業

FY2022/03 1Q 連結業績

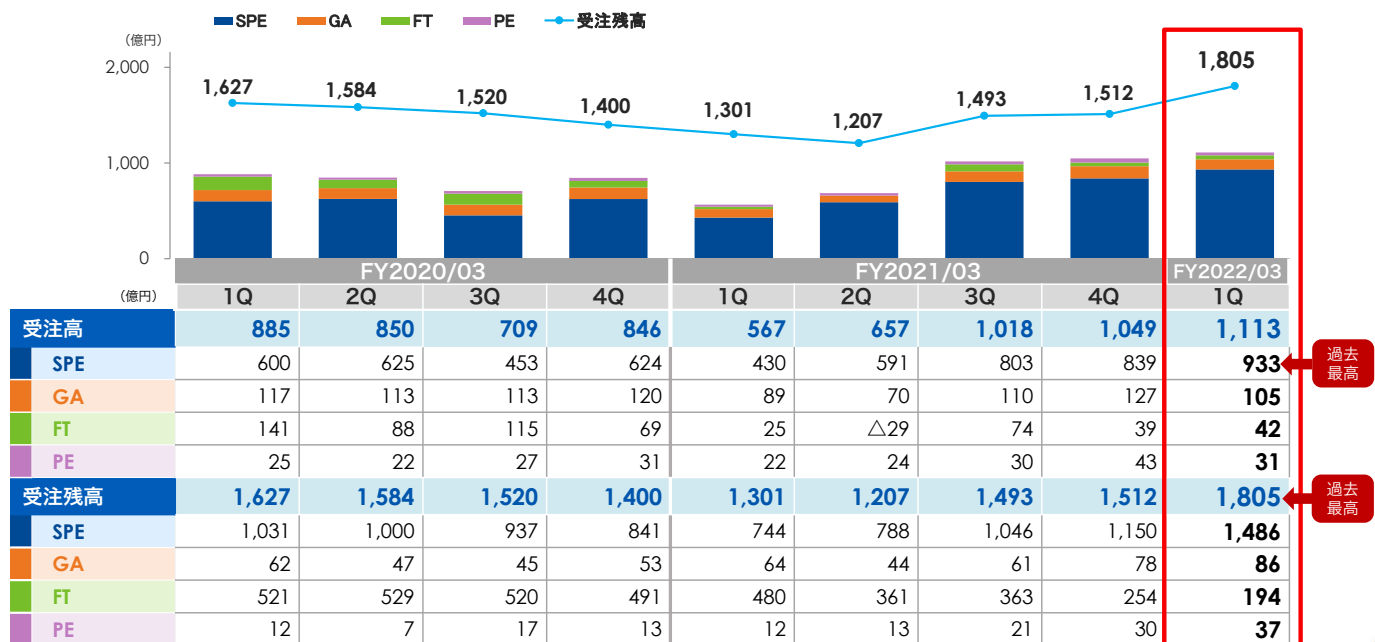
セグメント別売上高



地域別売上高



連結受注高／受注残高の四半期推移



- 全社の1Q受注高は、3四半期連続の1,000億円超えの高水準となりました
SPEの1Q受注高は、四半期としては過去最高の933億円となりました

- 全社の1Q受注残高は、過去最高の1,805億円となりました

市場動向および見通し

SPE

- **WFE**：デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展に伴い先端デバイス投資に加え、半導体不足やEV化の流れを受けたデバイス投資も活況
 - ・ CY2021は前年比30%以上（\$85bn以上）の大きな成長を予想
 - ・ 1地域での生産集中への地政学的懸念から、各国で自国生産政策が進む

- **アプリケーション別の動向**：

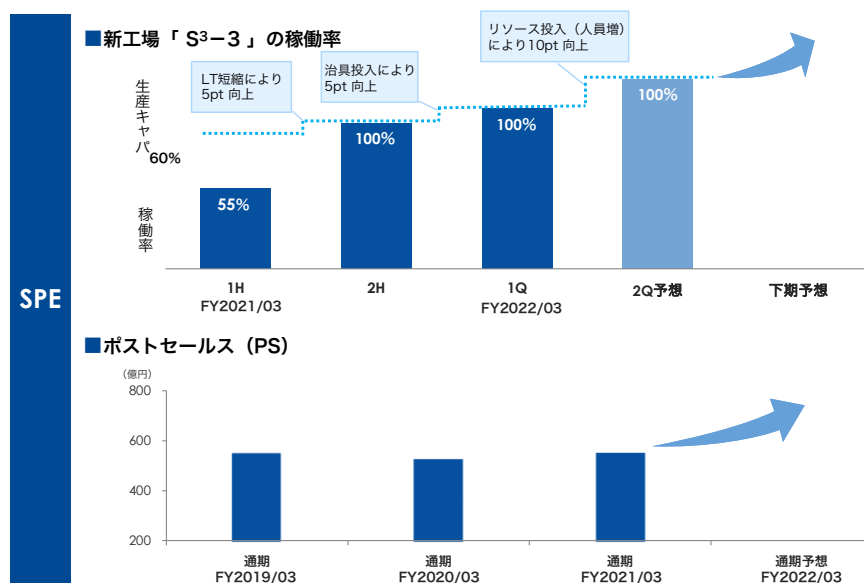
ファウンドリー	各地域で最先端・量産・レガシーの各ノードへ力強い投資継続
ロジック	北米での量産投資と、欧州の先端ノードへの投資継続
メモリー	NANDは堅調、DRAMで強気な投資継続
画像素子	ハイエンドイメージセンサーへの需要堅調。車載・セキュリティ向け需要拡大にも期待
中国市場	レガシーノードのデバイス需要活況を背景にメモリーやファウンドリー投資継続
その他	パワー半導体関連の投資が活発、車載や産業用MPUの不足によりレガシーノード向け装置も需要旺盛

- ▶ 最先端ノードへのパイプラインを重視、POR確保を目指す
- ▶ 量産からレガシーノードまで、多様なソリューションの提供
 - 供給責任を果たすべく、万全な開発・生産体制で臨む

セグメント別業績概況

SPE

■ その他指標



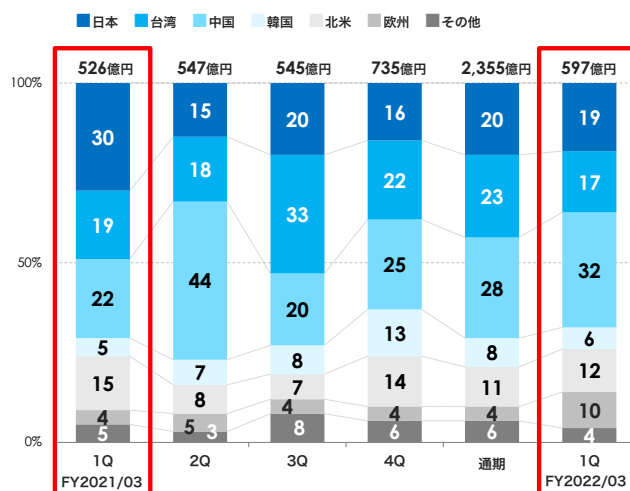
- 上期：人員投入時期を早め、生産キャパを増加、高稼働率を維持
- 下期：増産施策継続
 - ・ 生産効率化施策の検討
 - ・ 稼働時間延長の検討
- S³-3以外の生産拡大施策
 - ・ FT生産設備流用開始

- 今期のPS売上も20%以上を想定

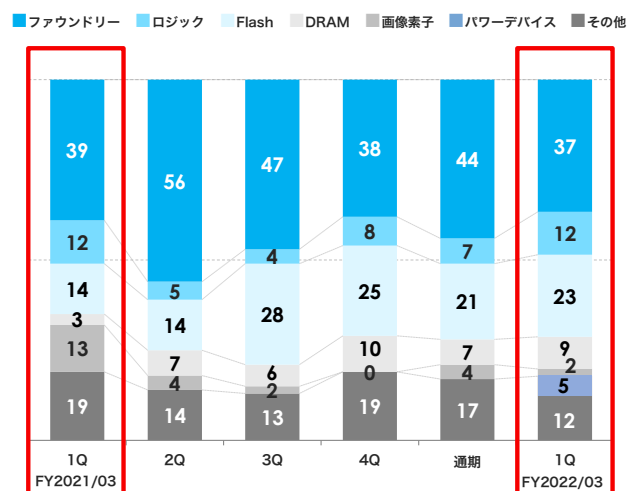
売上高比率>> 連結・地域別 / 単独・アプリケーション (デバイス) 別

SPE

連結・地域別 - 仕向地ベース



単独・アプリケーション (デバイス) 別



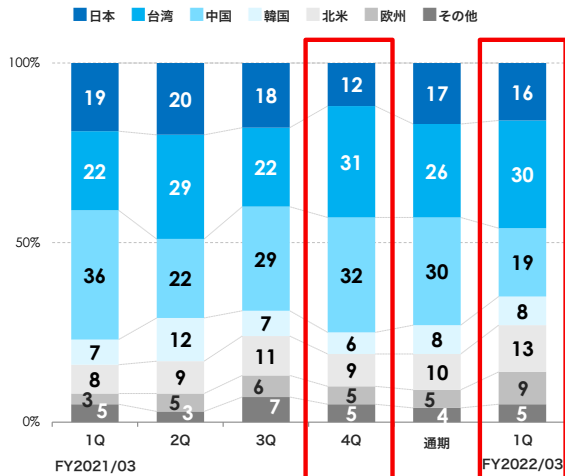
■ 地域別：1Q (YoY) 、中国が大幅増加

■ アプリケーション別：1Q (YoY) 、メモリー (Flash、DRAMともに) が大幅増加

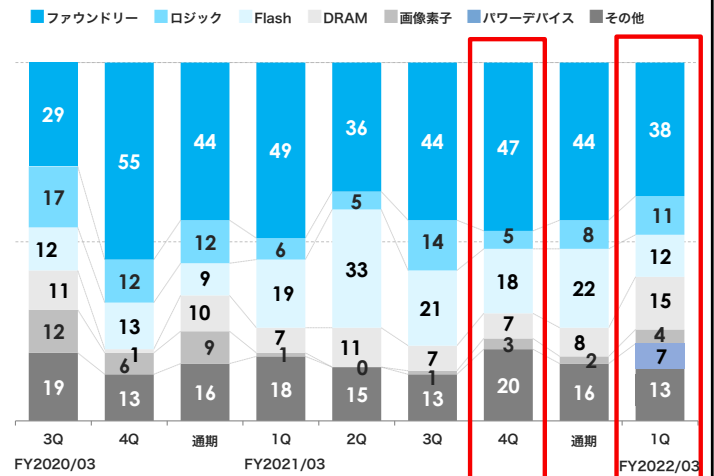
単独・受注高比率

SPE

地域別 - 仕向地ベース



アプリケーション (デバイス) 別 - 四半期推移



■ 地域別：1Q (QoQ)、台湾からの受注は引き続き高水準。北米、欧州も増加

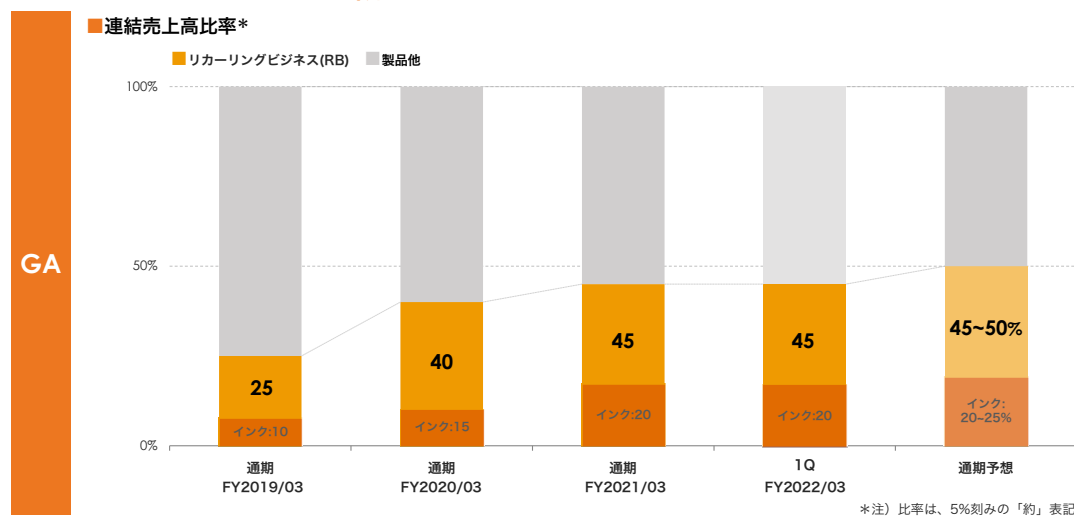
■ アプリケーション別：1Q(QoQ)、ファウンドリーは減少、ロジック、DRAMは増加。パワーデバイスが存在感増す

- 1Q受注高（連結）は、933億円となりました
- 2Q受注高ガイダンスは、1Qと同水準を見込んでいます

セグメント別業績概況

GA

リカーリングビジネスは堅調

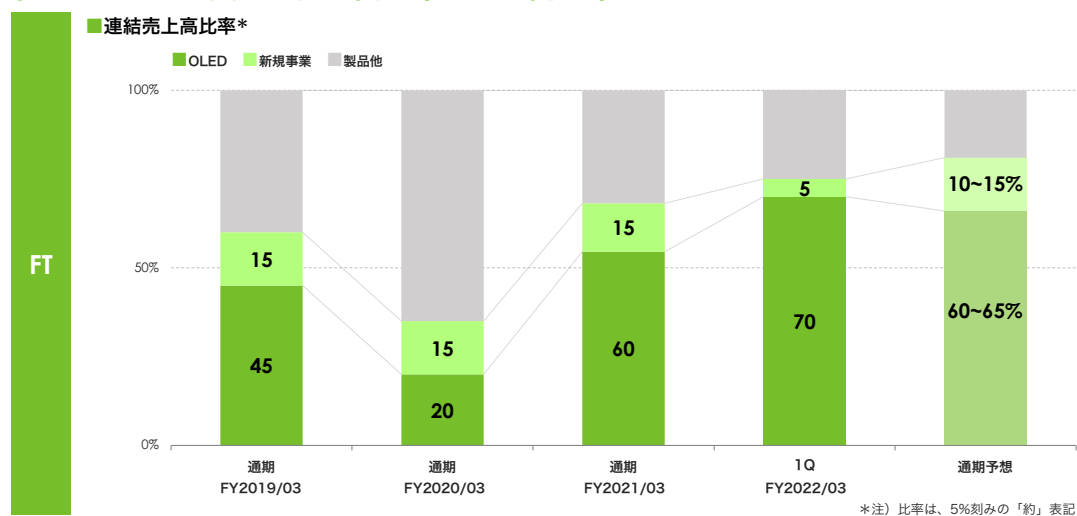


- 1Q、インクを中心とするリカーリングビジネス (RB) は堅調
- 今後もコロナ禍影響はあるも、グローバルに需要が見込まれるPODに注力

セグメント別業績概況

FT

■ 中小型OLED、受注・売上高比率ともに高水準

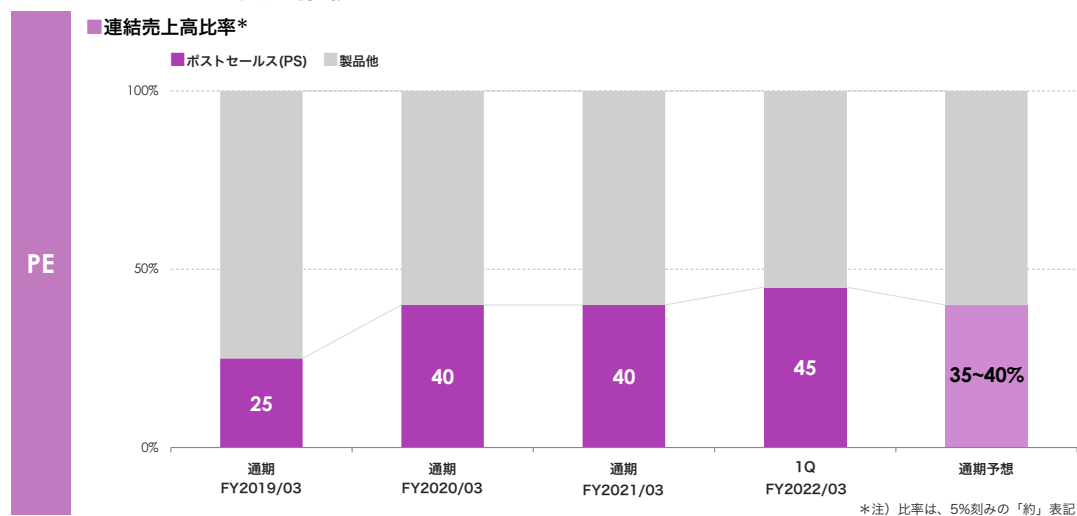


- 1Qの連結受注高は42億円（OLED向け中心）、2Qは増加を見込む
- 売上は中小型向けOLEDが中心、今期はこの傾向が続くと予想

セグメント別業績概況

PE

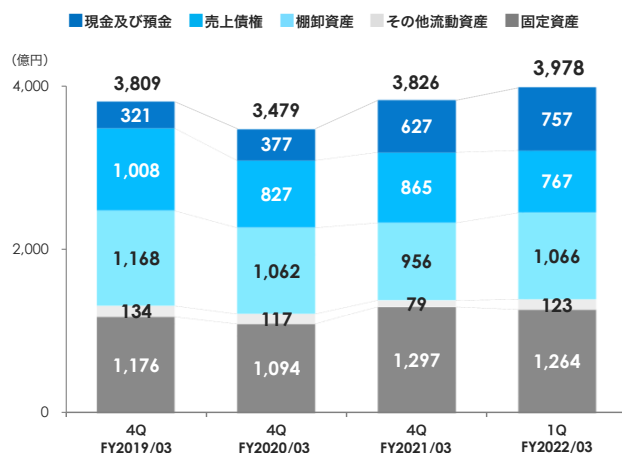
■ ポストセールスは安定推移



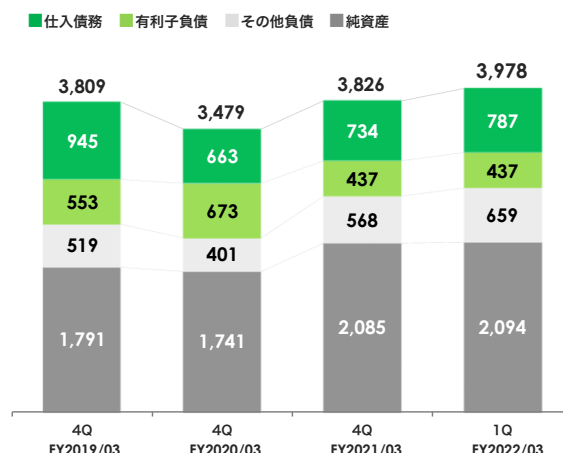
- 1Q、市場拡大する5G（モバイル、サーバー向け）、パッケージ向け需要が引き続き旺盛
- 今期は新製品（Ledial Twin）の販売開始

財務状況：連結貸借対照表

資産



負債および純資産



■ 自己資本比率は52.6% (FY2022/03 1Q)

■ 319億円のネットキャッシュ

●総資産：3,978億円となりました

●資産の部

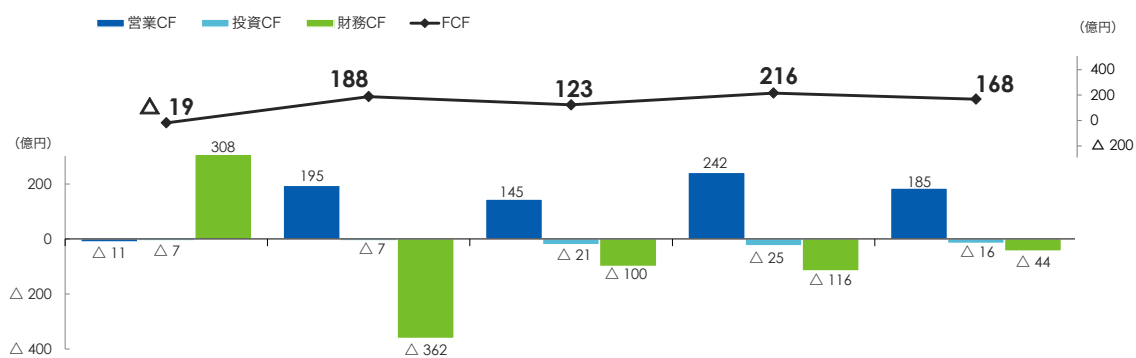
- ・売上債権が減少した一方、現金及び預金や棚卸資産が増加したことなどから、前年度末に比べ152億円増加し、3,978億円となりました

●負債および純資産の部

- ・負債は、仕入債務や契約負債が増加したことなどにより、前年度末に比べ、143億円増加し、1,883億円となりました
- ・純資産は、配当金の支払いの一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより、前年度末に比べ9億円増加し、2,094億円となりました

●以上の結果、自己資本比率は、52.6%でした

財務状況：連結キャッシュ・フロー



(億円)	FY2021/03				FY2022/03
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
営業CF	△11	195	145	242	185
投資CF	△7	△7	△21	△25	△16
FCF	△19	188	123	216	168
財務CF	308	△362	△100	△116	△44

※ FCF：フリーキャッシュ・フロー

■ 営業CF、FCFともに高水準維持。上期末にはさらなる上積みを見込む

FY2022/03 業績予想 (2021年7月28日時点)

(億円)	FY2021/03 実績	FY2022/03 5月発表			FY2022/03 7月発表		
	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,203	1,820	1,905	3,725	1,855	2,060	3,915
SPE	2,355	1,395	1,455	2,850	1,415	1,640	3,055
GA	374	185	195	380	190	190	380
FT	347	170	180	350	175	155	330
PE	104	55	60	115	60	60	120
その他および調整	22	15	15	30	15	15	30
営業利益	244	175	200	375	195	250	445
営業利益率	7.6%	9.6%	10.5%	10.1%	10.5%	12.1%	11.4%
SPE	259	190*	210*	400*	215*	270*	485*
GA	5	0*	5*	5*	0*	5*	5*
FT	4	0*	5*	5*	0*	0*	0*
PE	7	5*	5*	10*	5*	5*	10*
その他および調整	△32	△20*	△25*	△45*	△25*	△30*	△55*
経常利益	227	160	185	345	180	230	410
親会社株主に帰属する当期純利益	151	110	130	240	125	155	280

注) FY2022/03 (通期) 想定為替レート>> 1USD=¥107、1EUR=¥130
 想定為替感応度 (通期営業利益ベース) >> 対USD: ¥0.8億、対EUR: ¥0.3億

* セグメント別営業利益予想: 5億円刻みの「約」表記

- 通期の売上高は、過去最高の3,915億円を見込んでいます
- 営業利益は、過去最高の445億円の見込みです
- 経常利益は、410億円の見込みです
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比の85%増の280億円を見込んでいます
- SPEは好調な市場環境を受け、売上、営業利益ともに過去最高となる見込みです

FY2022/1Q実績と予想

その他

(億円)	1Q実績	上期予想	下期予想	通期予想
減価償却費	23	49	51	100
設備投資額	16	55	75	130
研究開発費	50	115	125	240

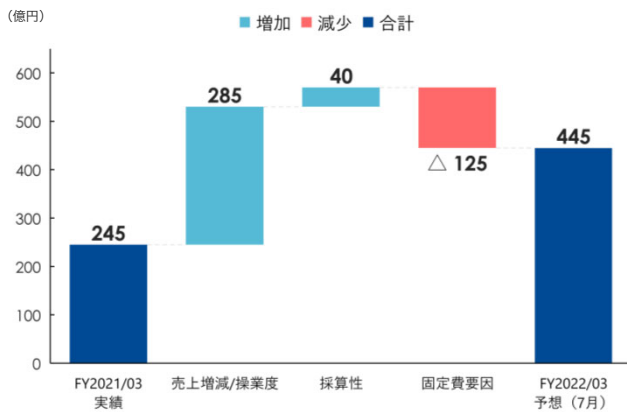
>>配当予想について

- ・純利益の大幅増加を踏まえ180円に増配
- ・中期経営計画の連結総還元性向30%以上方針に沿って、株主の皆様へ還元

(円)	通期
1株当たり配当予想	180

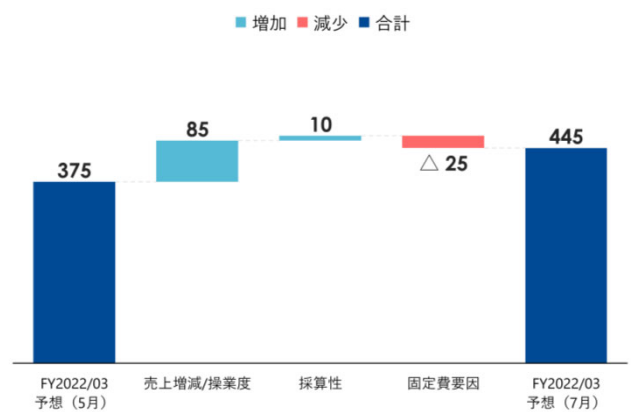
営業利益増減分析

■ FY2021/03実績 vs FY2022/03予想（7月）



>>SPEの売上増、SPE、GA、FTの採算性改善が奏功して利益増

■ FY2022/03 予想比較（5月予想 vs 7月予想）



※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

>>SPEの売上増、GA、FTの採算性改善により利益増

FY2021/03実績 vs FY2022/03予想（7月）

●売上増減/操業度：+285億円

>>ほとんどがSPEです

●採算性：+40億円

>>ほとんどがSPEです

●固定費要因：△125億円

>>マイナス要因のほとんどはSPEです

FY2022/03予想比較（5月予想 vs 7月予想）

●売上増減/操業度：+85億円

>>ほとんどはSPEです

●採算性：+10億円

>>ほとんどはSPEです

●固定費要因：△25億円

>>マイナス要因のほとんどはSPEです

最近のグループニュース（Webサイトより抜粋：2021年5月12日～2021年7月28日）

HD

- 生産システムの自動化を実現する、インクジェット式錠剤印刷機の最新モデルを開発
- AFIとSCREEN、業界初となるラベルフリー細胞分離分析システムを開発
- 長時間循環停止した臓器の生体外蘇生に成功
～メタボローム比較解析により劣化臓器の代謝回復までを実証～
- 京都市青少年科学センターの「夏休み体験型特別展」に協力
～SCREENの技術で社会課題の解決を身近に感じる体験展示～

GA

- 日本印刷学会で「研究発表奨励賞」を受賞
～画像処理技術の応用により、軟包装インクジェット印刷の品質向上を実現～

FT

- 東京ガスとSCREEN、低コストグリーン水素製造に向けた水電解用セルスタックの共同開発に合意

ESG関連の取り組み

E（環境）

- 東京ガスとSCREEN、低コストグリーン水素製造に向けた水電解用セルスタックの共同開発に合意（詳細はP23を参照）

S（社会）

- コロナワクチン職域接種（本社、彦根）を、7,000人対象に実施
 - サプライチェーンを含めたコロナウイルス感染症対策を強化

G（ガバナンス）

- 女性取締役（社外）の就任（6月24日開催の当社定時株主総会にて選任）
→同志社大学大学院 ビジネス研究科 准教授 奥平 寛子氏
- コーポレート・ガバナンス報告書の更新（7月8日）
→「取締役・監査役の主な専門性と経験（スキルマトリックス）」を掲載
- ESG系インデックス銘柄に選定（継続）
→当社は、FTSE4Good Index Series（2004年から）、および、FTSE Blossom Japan Index（2017年から）、SOMPOサステナビリティ・インデックス（2018年から）の構成銘柄です



東京ガスとSCREEN、低コストグリーン水素製造に向けた水電解用セルスタックの共同開発に合意

- 低コストグリーン水素製造に資する水電解システムの構築に向けて、中核部品である「水電解用セルスタック」および「水電解用セルスタックの製造装置」の共同開発に合意
- コスト比重が高い水電解用セルスタックの、低コスト製造技術を2年後に確立することを目標
- 当社が保有するロールtoロール方式による連続生産技術を応用。水電解用セルスタックの製造技術および製造装置の開発を担う



図1 水電解用セルスタックの低コスト製造（イメージ図）

>>水電解セルスタック市場という新たな分野での事業展開を図る
>>本開発を通じて、脱炭素、サステナブルな社会の実現に貢献

■日本印刷学会で「研究発表奨励賞」を受賞

～画像処理技術の応用により、軟包装インクジェット印刷の品質向上～

- 株式会社SCREENグラフィックソリューションズが販売予定の新製品、軟包装向け水性インクジェット印刷機「Truepress PAC 830F」に搭載の技術
- 高い印刷品質が要求され、かつ薄フィルムの搬送が難しい軟包装向け印刷において、印刷品質の向上を実現
- 画像処理技術を応用し、スジムラや濃度ムラを補正、色間の見当ズレを低減・チェックする技術を開発



軟包装向け水性インクジェット印刷機「Truepress PAC 830F」

>>軟包装業界や印刷業界では、SDGsの目標達成に向けた取り組みが加速

>>色見本印刷の削減と、人と自然に優しい水性インク使用により、軟包装業界や印刷業界のSDGs目標達成に貢献

Appendix>>

HD

■生産システムの自動化を実現する、インクジェット式錠剤印刷機の最新モデル 「OMNITO+（オムニトプラス）」を開発

- 錠剤の外観検査から印刷、印刷後の印刷検査までを1台で実現したOMNITOに、生産能力向上とオペレータの安全、安心に配慮した自動化機能を追加

インクジェット式錠剤印刷機
「OMNITO+」



■AFIとSCREEN、業界初となるラベルフリー細胞分離分析システム 「ELESTA® CROSSORTER®（エレスタ クロスソーター）」を開発

- 細胞分離に重要な3つの特徴（ラベルフリー、ダメージレス、コンタミネーションフリー）を備えた、業界初となるラベルフリー細胞分離分析システムを共同開発。
AFIのマイクロ流路と電極を用いた革新的フィルター技術「AMATAR®」と、SCREENの技術である細胞スキャナーの画像解析技術を融合。

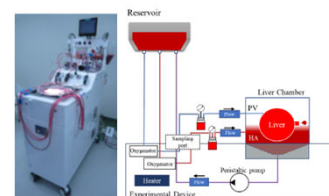
ELESTA® CROSSORTER®
(エレスタ クロスソーター)



■長時間循環停止した臓器の生体外蘇生に成功 ～メタボローム比較解析により劣化臓器の代謝回復までを実証～

- 慶應義塾大学医学部との臓器灌流（かんりゅう）システムの実用化に向けた共同研究。
生体外灌流により、劣化した臓器の短時間での機能蘇生に成功

臓器灌流システム



Appendix>> セグメント別業績

SPE

前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
(億円)	1Q	1Q		
売上高	526	597	70	13.4%
営業利益 営業利益率	42 8.1%	88 14.9%	46	107.8% 6.8pt

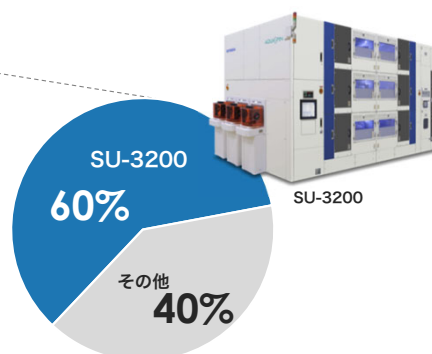
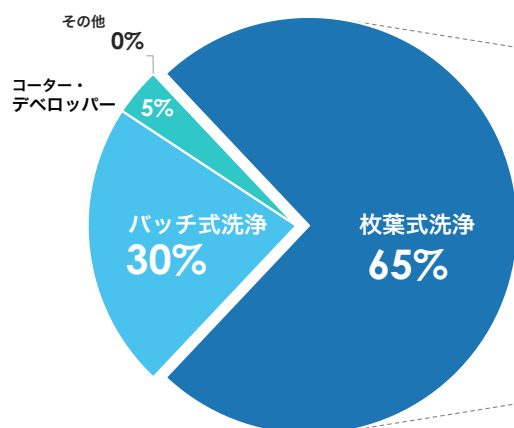
前四半期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
(億円)	4Q	1Q		
売上高	735	597	△137	△18.7%
営業利益 営業利益率	107 14.7%	88 14.9%	△18	△17.6% 0.2pt

Appendix>> 単独・売上高比率

SPE

洗淨装置 製品別売上高比率 - FY2022/03 1Q



(%)	FY2019/03	FY2020/03	FY2021/03	FY2022/03 1Q
枚葉	65	65	70	65
バッチ	20	25	25	30
コーデベ	10	5	5	5
その他	5	5	0	0

※上記比率は、5%刻みの「約」表記

Appendix>> セグメント別業績

GA

前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
(億円)	1Q	1Q		
売上高	79	96	17	21.7%
営業利益 営業利益率	$\Delta 3$ $\Delta 5.0\%$	2 2.7%	6	- 7.7pt

前四半期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
(億円)	4Q	1Q		
売上高	111	96	$\Delta 15$	$\Delta 13.5\%$
営業利益 営業利益率	5 5.0%	2 2.7%	$\Delta 2$	$\Delta 53.2\%$ $\Delta 2.3pt$

Appendix>> セグメント別業績

FT

前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
(億円)	1Q	1Q		
売上高	36	102	66	180.5%
営業利益 営業利益率	△15 △41.4%	2 2.2%	17	- 43.7pt

前四半期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
(億円)	4Q	1Q		
売上高	149	102	△46	△31.0%
営業利益 営業利益率	13 8.8%	2 2.2%	△10	△82.4% △6.6pt

Appendix>> セグメント別業績

PE

前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
(億円)	1Q	1Q		
売上高	23	23	△0	△0.7%
営業利益 営業利益率	1 5.2%	2 9.0%	0	70.9% 3.8pt

前四半期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
(億円)	4Q	1Q		
売上高	34	23	△11	△32.3%
営業利益 営業利益率	4 13.6%	2 9.0%	△2	△55.3% △4.6pt

Appendix>> 主要数値の変遷

(億円)	FY2017/03	FY2018/03	FY2019/03	FY2020/03	FY2021/03	FY2022/03 予想
売上高	3,002	3,393	3,642	3,232	3,203	3,915
営業利益	337	427	296	125	244	445
営業利益率 (%)	11.2	12.6	8.1	3.9	7.6	11.4
総資産	3,006	3,658	3,809	3,479	3,826	-
自己資本	1,428	1,708	1,791	1,739	2,083	-
自己資本比率 (%)	47.5	46.7	47.0	50.0	54.5	-
ROE (%)	18.4	18.2	10.3	2.8	7.9	-
減価償却費	53	57	68	88	96	100
設備投資額	82	144	240	79	78	130
研究開発費	177	208	228	215	215	240
EPS (円)	511.96	608.62	387.10	107.37	325.21	601.28
期末配当 (円)	87	110	97	30	90	180



Innovation for a Sustainable World